

「十五の君よ、さらば！」かな??

「拝啓 十五の君へ」の曲に関係する記事をいくつか HP に掲載したが、記事を目にした方々からコメントやご自身の十五の自分への手紙等をいただいた。

それらを目にしている、「さて、自分の十五の頃は？」とふと思った。

自分の十五の頃を知るにはその頃の日記を読み返すことかなと思って、どこにしまったかを忘れていたので、家中を探し回ってようやく入っているダンボール箱を見つけた。

今も書字には自信がないが、あの頃も字は乱雑で我ながら読み返す気にならず (T\_T) まあ、自分は HP の記事上でもしばしば「我が精神年齢は高校時代でストップ」と公言しているだけに、日記の中の自分も今とそう変わらないのだろうかあと推測… (^\_^)

そう思うと、これ以上日記を保管していても意味がないかなと思い、「十五の君よ、さらば！」とばかりにシュレッターにかけた !(^^)!

また、そろそろ人生飛行の着地のためにも、余計な荷物がない方が着地し易いかも…とも思った (^\_^)

シュレッターはモーターが熱を持つと自動的にストップするが、何と数回ストップした分量で約 4 時間かかり裁断したクズは有料ゴミ袋・大 2 ケ分 (@\_@)

日記はゴミと化したけど、小学 5 年からの詩を書き留めた 20 冊の詩集ノート、高校時代に勉強そっちのけで友人たちに回し読みをしてもらった学園物の短編小説数編のノート、そして、友人からいただいた小説の感想文を書き纏めたノート (HP「雑学 BN」の随想等関係 (I)、1963.「学園物小説の感想文」: 参照) はまだあるので、まあ何かの時は「十五の君」にまた会えるかも…。

振り返るに、今も HP 記事等を「書くこと」がそう苦手でないのは、あの頃からの「文書き」で培われたのだろうかあと、ゴミ袋の分量を見てつくづく思った。

今の、やること、なすことは、あの頃と何ら変わっていないようだし、詩も小説も高卒以降は書いていないし、やはり精神年齢は高校時代でストップのようで、喜ぶべきか、悲しむべきか (^o^)

それにしても、自分の源流と思われる「心の品」は、一つでも持ち続ける方がいいように思う。

日頃それを見なくても「ある」と思うだけで、迷い、戸惑いが生じた時に戻るところがあるように思う。